

# 大阪府熊取町の小学校体育館を活用したユニバーサルスポーツ実施

熊取町小学校の体育館といった身近なスポーツの場を活用し、健常者と障がい者とを区別せず、多世代がそれぞれの立場でスポーツを通して、お互いを分かり合い、長期的にスポーツを楽しめる仕組みをつくる取組の実施

## 事業の趣旨・概要

- 小学校体育館を活用した地域スポーツは活発に行われていたが、障害者や介助が必要な方はなかなか参加できていない。
- 健常者だけ、障害者だけ、子供だけ、高齢者だけなどと区別された交流が多い。

スポーツを通して相互扶助の考えが根付き、その地域内において持続可能な仕組みを担うユニバーサルな社会実現を目指す人材を育てるため、ユニバーサルスポーツ (ミニらいとモルック) を用いた取組を展開

### (1)全体会議の設置

### (2)「教室」の定期開催

- 熊取町の2つの小学校の体育館を活用し、「教室」を全11回開催
- 開催にあたっては、小学校の受入環境を点検し、それに対応するためのソフト的な対応を検討し、障害者等を安全に受け入れた。

### (3)「大会」の開催

- 健常者、障がい者、子供、高齢者など100名以上が本気で競い合うスポーツ大会を開催 (3回)
- 多様性のある多世代の大きな交流の機会を創出した。

### (4)指導員養成講習の開催

- 地域で定着させるため、地域住民等を対象に、ユニバーサル社会の実現に向けた考え方やミニらいとモルックのルール等について座学の実施 (3回)
- また、「教室」開催に従事し、次年度以降の自走化を目指した。



## 本事業の成果

### ■ 既存の学校体育施設において、ソフト面を重視した受入環境の整備

- 小学校及び体育館の懸念される場所の洗い出し、その対応策をまとめたマニュアルを作成し、関係者に共有し、**受入対応を行ったことで、参加者の安全を確保**することができた。



### ■ 誰もがスポーツに親しめる機会の創出

- 高齢者や車いす利用者、発達障害児、認知症など様々な属性の参加を実現した。
- アンケート調査の結果、参加者の満足度が高く、**障害の有無に関わらず、誰もがスポーツを楽しむ**ことができていた。



### ■ ユニバーサルスポーツの意義等に対する理解の醸成

- 町のスポーツ推進員に加え、大学生や地域の方々が講習や実際の「教室・大会」を通じて、**相互扶助に関する考えを養う**ことができた。

## 今後の展望

- **継続的に実施するための仕組みづくり**
  - 様々な団体の活用、学校の都合による日程変更等もあることから、引き続き、熊取町と連携し、安全を確保しながら継続的に開催する。
- **安全な環境づくりの充実**
  - ハード面では、車いすや要介助者にとってバリアがあるものの、指導者やスタッフの声掛けやフォロー等といったソフト面で安全な環境を作ることができるため、引き続き、指導員養成を行い、心構えやスキル向上を目指す。
- **福祉や地域包括との連携**
  - 自治体の共生活動の活性化の取組のひとつとしての展開可能性も探る。